

Title	ある語彙テストについての考察
Author(s)	乙政, 潤
Citation	大阪外国語大学学報. 68 p.51-p.62
Issue Date	1985-03-30
oaire:version	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/81039">https://hdl.handle.net/11094/81039</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

## ある語彙テストについての考察

乙 政 潤

### Betrachtungen zu einem Wortschatztest

Jun OTOMASA

1. 1983年度、第1部2回生に対してLLで *Kinderduden* を使って授業した。第1課から第14課まで進んだとき(全28課)、新出語(すべて名詞)369語から100語を選び出し、テストⅠとテストⅡを行った。テストⅠでは、単語の録音テープをヘッドフォンを通して聞かせて(1回聞き聞かせた)意味を日本語で書かせた。テストⅡでは、原書の場面画の名詞相応部分を拡大して各ページのテレビに写し出し、番号を告げ、その名詞の綴を書かせた。(授業中に既に、どの番号がどの対象を指すかを確認したから、番号と対象の関係についてはあいまいさはなかったと考える。)

同一被験者に対してテストⅠとⅡを連続して行い、その上テストⅠとテストⅡは同じ100語を扱っているのであるから、テストⅠによるいわゆる「学習効果」がテストⅡに現れることを極力防がねばならない。そのために、テストⅠとテストⅡにおける単語の配列順は完全に違えたのは当然であるが、そのほかにテストⅠをテストⅡに先立って行った。逆の順で行えば、絵を見て書いた綴が、次のテストで発音を聞きとる際に手がかりになる可能性があると考えたからである。

2. 以下に、このテストの結果についてのいくつかの解釈を試みる。

2-1. ドイツ語の名詞を聞かせて意味を書かせる(つまり「聞いて分るか」を試す)テストとは、言い換えれば、学習者がその単語を受動的にはマスターしているかどうかを試すテストである。同じ名詞が表わす対象を見せてその名をドイツ語で書かせる(つまり「物を見て名が言えるか」を試す)テストとは、いわば学習者がその単語を能動的にマスターしているかどうかを試すテストである。

同じ単語について受動的テストと能動的テストとを行えば、前者のほうが成績が勝るであろうことは、当然予測される。このテストでも結果はその予測のとおりであった。

(表1) 全体の傾向

	正答数	誤答数	正答率
テストⅠ	2315	285	89.03
テストⅡ	2165	435	83.26

ここで「誤り」とは、被験者が全く答を書けなかったか、書いたとしても完全ではなかったことを意味する。上の数値を見るかぎりでは、能動的なテストは受動的なテストに比べてそれほど大差をあけられておらず、このクラスはこの単語テストではまずまず成功したように見える。しかし、この正答率をもってテストの達成度と見なしてもよいものであろうか。

テストⅠとテストⅡの誤りの合計が少い単語から順に並べて（附録１）を作った。「誤りが少い」ことを「易しい」と解し、「誤りが多い」ことを「難しい」と解すると、（附録１）は「易しい」単語から「難しい」単語へと並べたものである。誤り合計には同数が多いので、Ⅰ～ⅩⅧのグループにまとめることができる。

（附録１）を見ると、テストⅠについて全員が正解した（つまり誤り数０）単語もあるし、テストⅡについて全員が正解した（つまり、同じく誤り数は０）単語もある。これらを整理すると次のようになる。

（表２）全員正解の分布（カッコ内は各グループの単語の総数）

	テストⅠ	テストⅡ
I.	1 (1)	1 (1)
II.	3 (3)	—
III.	2 (3)	—
IV.	4 (11)	1 (11)
V.	2 (9)	—
VI.	2 (14)	—
VII.	5 (11)	—
K.	2 (16)	—
XII.	1 (8)	—
XIII.	1 (6)	—
	23	2

テストⅠでは全員の正解は23語（全体の約4分の1）について起っており、それもグループⅩⅢ（100語中の第90位）にまで及んでいる。言い換えれば、全員の正解は「難しい」単語においても起っている。しかし、テストⅡでは全員の正解はわずか2語についてしか起っておらず、それもグループのⅣ（100語中第8位）に留っている。つまり、テストⅡについては全員の正解は「易しい」単語についてしか起らない。被験者たちは、100語を受動的にはかなりの程度までマスターしたと言える。他方、能動的にはそれよりもかなり劣る程度にしかマスターしなかった。この単語テストの場合、正答率と達成度は別である。

2-2. （附録１）を見て分るとおり、各単語についての学習者のテストⅠの誤り数とテストⅡの誤り数とは一致しないのが普通である。いま、上位5位の単語（単語数7）と下位5位の単語（単語数5）について誤り数を対照してみる。

(表3) 上位7語と下位5語における誤りの分布

	テストⅠ	テストⅡ	計
上位7語	1	8	9
下位5語	64	49	113

(表1)の示すとおり誤り総数は719であるから、下位5語だけでその約18% (719 : 113) を占め、上位7語の約1.3% (9 : 719) に比べると10倍以上も「難かし」い。ところで、テストⅠの落差は63、テストⅡの落差は41であるから、この「難かしさ」の原因となった113という誤り数は、どちらかと言えばテストⅠの誤り数によってもたらされたものであると言える。つまり、下位の5語が「難かしい」のは、どちらかと言えば学習者がこれらを受動的にマスターしていなかったことに起因している。能動的にマスターしていなかったことが直接の原因ではない。つまり、この単語テストにおいては、単語が「難しい」ということの内容は「その単語をまず受動的にマスターしていない」ことなのである。

2-3. テストⅠとテストⅡは同じ100語を使って行ったのであるから、被験者が両方のテストで同一単語を誤るということがありうる。それは、学習者がその単語を聞かされても意味が分らず、それが表わす物を見せられても名を言うことができないことを意味する。つまり、その単語は、受動的にも能動的にも彼の語彙に属さない。そのような単語をここでは仮に「ダミー」と名づけよう。どの単語が何人の学生において「ダミー」となったかを調べて(附録2)を作った。

「ダミー」の生起に関しては4通りの場合が考えられる。テストⅠ・Ⅱともに全員正解の場合、テストⅠもしくはテストⅡが全員正解の場合、テストⅠ・Ⅱとも全員正解がない場合。いまこの観点から(附録2)を整理してみる。

(表4) 「ダミー」が起りうる場合の分布

	起らず	起る
テストⅠ・Ⅱとも誤りゼロ	1	—
テストⅠにのみ誤りゼロ	24	0
テストⅡにのみ誤りゼロ	1	0
テストⅠ・Ⅱとも誤りあり	13	61
計	39	61

テストⅠが全員正解であれば(つまり全員がその単語を受動的にマスターしていれば)「ダミー」が生じなくてすむ可能性は高い(100 : 24 = 24%)。これに反して、テストⅡが全員正解であれば(つまり全員がその単語を能動的にマスターしていれば)「ダミー」が生じなくてすむ可能性は極めて低い(100 : 1 = 1%)。また、被験者のなかにテストⅠとⅡについて誤りを犯した者がある場

合、「ダミー」が生じない可能性は、テストⅠにおいて全員が正解した場合（24％）に比べると、それほど高くない（ $100:13=13\%$ ）。つまり、単語をマスターしようとする場合、まず、受動的にマスターしてしまうことがポジティブな結果をもたらす要因となると考える。

2-4.（附録3）として被験者26名（仮名にし、アルファベットをあてた）を成績順に並べた表を作った。「その1」はテストⅠとテストⅡの正解の合計の多い順に並べたものである。この配列には二つ問題がある。第1に、同点者でテストⅠとテストⅡの配分が異っている場合をどう扱うか。第2に、「ダミー」を考慮せずに合計だけで順位を決められるか。

第1の問題の解決：受動的な能力を示すと考えられるテストⅠの結果のほうがテストⅡの結果よりも勝っている者を同点者の中で上位に置く。理由は、上で見たとおり、今回のテストでは受動的なマスターのほうが単語のマスターにとって根底的と考えられること。この問題があてはまるのはGとK、DとM、SとH、AとP。

第2の問題の解決：200点満点での合計数を100点満点の点に換算するとき、分母200に「ダミー」の数を「ウエイト」として加え、その結果によって順位を決める。

こうして配列しなおした結果が（附録3）の（その2）である。KとGの順位を決めかねるほかはすべてに順位がついている。注目すべきは、DとM、SとHが入れ換ったことである。「ダミー」の1点の差が順位に作用した。上位に立ったMとHでは、テストⅠのほうがテストⅡよりも結果が勝っている。しかし、AとPではこの逆転が起らなかった。Pの「ダミー」の6点が大きくこたえたのである。PのテストⅠ：90という成績も（Aは82）「ダミー」6の失点をカバーできなかった。また、XとCも入れ換っている。（その1）ではXは合計が低い（165：171）Cの下位にあったが、CとXの「ダミー」の差（0：8）が効果をあらわして、（その2）では逆転した。ここではXのテストⅠの95が「ダミー」0と相乗の効果をあげていることも見逃せない。

3. もとより一回きりの、少数者を対象とした特殊な語彙テストであって、一般化できるような結論など引出すべくもないが、さしあたり感想的に次の2点を述べておきたい。

1) われわれは、学習者に外国語の単語を覚えさせるにあたって、それを彼らの能動的語彙とすることを至上の目的と考えがちだが、むしろその前に確実に受動的語彙とすることにもっと力を注ぐべきではないだろうか。

2) 視覚資料は単語を学習者の能動的語彙にするための手段であるとばかり考えがちだが、受動的語彙として確実にマスターさせるためにもっと利用することを考えるべきではないだろうか。

(1984・11・8)

## (附録1) 100語それぞれに見られるテストⅠならびにテストⅡの誤り

		テストⅠ	テストⅡ	計
I .	1.Stoßstange	0	0	0
II .	2.Beet	0	1	1
	Mülltonne	0	1	1
	Torpfofen	0	1	1
III .	5.Bahn	0	2	2
	Bürgersteig	1	1	2
	Eierbecher	0	2	2
IV .	8.Deckblett	2	1	3
	Kofferkuli	1	2	3
	Paketschalter	0	3	3
	Pflaster	2	1	3
	Planschbecken	2	1	3
	Rasen	2	1	3
	Rücklicht	1	2	3
	Schubblade	0	3	3
	Waage	0	3	3
	Weitsprung	3	0	3
	Zahnpaste	0	3	3
V .	19.Bauklotz	2	2	4
	Düse	2	2	4
	Fernsprechzelle	1	3	4
	Feuerzeug	0	4	4
	Gießkanne	1	3	4
	Hampelmann	0	4	4
	Kartenständer	3	1	4
	Kopfkissen	1	3	4
	Umkleidekabine	1	3	4
VI .	28.Ampel	1	4	5
	Badehose	0	5	5
	Heizung	0	5	5
	Hochsprung	1	4	5
	Krater	4	1	5

ある語彙テストについての考察

	Kreisel	2	3	5
	Küchenschrank	2	3	5
	Schaukelpferd	2	3	5
	Schnecke	1	4	5
	Schürze	3	2	5
	Startblock	1	4	5
	Startgerüst	2	3	5
	Stollen(サッカーシューズのスパイク)	4	1	5
	Türklinke	2	3	5
<hr/>				
VII.	44. Aschenbecher	0	6	6
	Brause	2	4	6
	Fußgängerweg	0	6	6
	Kittel	2	4	6
	Lenkstange	1	5	6
	Nähkasten	2	4	6
	Plattenspieler	0	6	6
	Stundenplan	1	5	6
	Sturzhelm	4	2	6
	Topflappen	0	6	6
	Torlatte	0	6	6
<hr/>				
VIII.	53. Ast	1	6	7
	Gardine	0	7	7
	Scheinwerfer	1	6	7
	Schwelle	4	3	7
	Spritze	2	5	7
	Stempelkissen	1	6	7
	Teppich	4	3	7
<hr/>				
IX.	61. Abfahrtstafel	3	5	8
	Astronaut	0	8	8
	Geisterbahn	1	7	8
	Gepäckwagen	3	5	8
	Güterwagen	1	7	8
	Kettenkarussell	1	7	8

	Klosett	0	8	8
	Krankenschein	5	3	8
	Leitung	5	3	8
	Puffer	3	5	8
	Ranzen	7	1	8
	Schüssel	6	2	8
	Sessel	3	5	8
	Tapete	5	3	8
	Trommel	5	3	8
	Zaun	2	6	8
X .	75. Badewanne	2	7	9
	Riesenrad	7	2	9
XI .	78. Hörrohr	7	3	10
	Pult	9	1	10
	Rutschbahn	6	4	10
	Spaten	5	5	10
XII .	83. Hecke	4	7	11
	Hocker	3	8	11
	Kachel/Fliese	8	3	11
	Klassenbuch	0	11	11
	Päckchen	2	9	11
	Schießbude	5	6	11
	Sparbuch	1	10	11
	Sprungbrett	3	8	11
XIII .	90. Etui	8	4	12
	Landfahre	3	9	12
	Raumsonde	6	6	12
	Rost	10	2	1
	Thermometer	0	12	12
	Zwiebel	9	3	12
XIV .	96. Strauch	7	6	13
XV .	97. Nachtschränken	15	3	18
XVI .	98. Liege	14	7	21
XVII .	99. Stengel	16	11	27
XVIII .	100. Couch	12	22	34
		284	435	719



## (附録 2) 100語における「ダミー」の分布

		テストⅠ の誤り数	テストⅡ の誤り数	合計	「ダミー」 の件数
I .	1.Stoßstange	0	0	0	0
II .	2.Beet	0	1	1	0
	Mülltonne	0	1	1	0
	Torpfosten	0	1	1	0
III .	7.Bahn	0	2	2	0
	Bürgersteig	1	1	2	1
	Eierbecher	0	2	2	0
IV .	10.Deckbett	2	1	3	2
	Kofferkuli	1	2	3	1
	Paketschalter	0	3	3	0
	Pflaster	2	1	3	1
	Planschbecken	2	1	3	2
	Rasen	2	1	3	2
	Rücklicht	1	2	3	1
	Düse	2	2	4	2
	Fernsprechzelle	1	3	4	0
	Feuerzeug	0	4	4	0
	Schublade	0	3	3	0
	Waage	0	3	3	0
	Weitsprung	3	0	3	0
	Zahnpaste	0	3	3	0
V .	22.Gießkanne	1	3	4	1
	Hampelmann	0	4	4	0
	Kartenständer	3	1	4	0
	Kopfkissen	1	3	4	0
	Umkleidekabine	1	3	4	0
VI .	29.Ampel	1	4	5	0
	Badehose	0	5	5	0
	Heizung	0	5	5	0
	Hochsprung	1	4	5	0
	Krater	4	1	5	1

	Kreisel	2	3	5	2
	Küchenschrank	2	3	5	1
	Schaukelpferd	2	3	5	1
	Schnecke	1	4	5	1
	Schürze	3	2	5	2
	Startblock	1	4	5	1
	Startgerüst	2	3	5	1
	Stollen	4	1	5	1
	Türklinke	2	3	5	1
<hr/>					
VII.	44. Aschenbecher	0	6	6	0
	Brause	2	4	6	0
	Fußgängerweg	0	6	6	0
	Kittel	2	4	6	2
	Lenkstange	1	5	6	0
	Nähkasten	2	4	6	0
	Plattenspieler	0	6	6	0
	Stundenplan	1	5	6	0
	Sturzhelm	4	2	6	3
	Topflappen	0	6	6	0
	Torlatte	0	6	6	0
<hr/>					
VIII.	53. Ast	1	6	7	1
	Gardine	0	7	7	0
	Geisterbahn	0	7	7	0
	Scheinwerfer	1	6	7	1
	Schwelle	4	3	7	3
	Spritze	2	5	7	2
	Stempelkissen	1	6	7	1
	Teppich	4	3	7	2
<hr/>					
IX.	61. Abfahrtstafel	3	5	8	1
	Astronaut	0	8	8	0
	Gepäckwagen	3	5	8	3
	Güterwagen	1	7	8	1
	Kettenkarussell	1	7	8	1
	Klosett	0	8	8	0

ある語彙テストについての考察

	Krankenschein	5	3	8	2
	Leitung	5	3	8	2
	Puffer	3	5	8	2
	Ranzen	7	1	8	2
	Schüssel	6	2	8	2
	Sessel	3	5	8	1
	Tapete	5	3	8	4
	Trommel	5	3	8	1
	Zaun	2	6	8	1
X .	75.Badewanne	2	7	9	1
	Riesenrad	7	2	9	3
XI .	78.Hörrohr	7	3	10	3
	Pult	9	1	10	1
	Rutschbahn	6	4	10	2
	Spaten	5	5	10	4
XII .	83.Hecke	4	7	11	2
	Hocker	3	8	11	1
	Kachel/Fliese	8	3	11	1
	Klassenbuch	0	11	11	0
	Päckchen	2	9	11	0
	Schießbude	5	6	11	1
	Sparbuch	1	10	11	1
	Sprungbrett	3	8	11	3
VIII .	90.Etui	8	4	12	1
	Landfähre	3	9	12	2
	Raumsonde	6	6	12	3
	Rost	11	2	13	3
	Thermometer	0	12	12	0
	Zwiebel	9	3	12	1
XIV .	96.Strauch	7	6	13	3
XV .	97.Nachtschränkchen	15	3	18	2
XVI .	98.Liege	14	7	21	1
XVII .	99.Stengel	16	11	27	5
XVIII .	100.Couch	12	22	34	1

(附録3) 被験者26名の順位

(その1)						(その2)						
順位	被験者	テストⅠ	テストⅡ	計	ダメージ	順位	被験者	テストⅠ	テストⅡ	計	ダメージ	ウェイトを加えた百分率
1.	G	97	98	195	0	1.	K	98	97	195	0	97.5
1.	K	98	97	195	0	1.	G	97	98	195	0	97.5
3.	Q	100	93	193	0	3.	Q	100	93	193	0	96.5
4.	L	95	97	192	0	4.	L	95	97	192	0	96.0
5.	R	97	94	191	0	5.	R	97	94	191	0	95.5
6.	W	97	93	190	0	6.	W	97	93	190	0	95.0
7.	Z	96	91	187	0	7.	Z	96	91	187	0	93.5
8.	E	97	88	185	0	8.	E	97	88	185	0	92.5
9.	D	89	93	182	2	9.	M	88	84	182	1	90.5
9.	M	88	84	182	1	10.	D	89	93	182	2	90.1
11.	O	91	90	181	2	11.	O	91	90	181	2	90.0
12.	S	87	90	177	2	12.	H	90	87	177	1	88.1
12.	H	90	87	177	1	13.	S	87	90	177	2	87.6
14.	U	93	80	173	3	14.	U	93	80	173	3	85.2
15.	A	82	90	172	4	15.	A	82	90	172	4	84.3
15.	P	90	82	172	6	16.	P	90	82	172	6	83.5
17.	C	87	84	171	8	17.	X	95	74	165	0	82.5
18.	X	95	74	169	0	18.	C	87	84	171	8	82.2
19.	T	84	84	168	5	19.	T	84	84	168	5	82.0
20.	B	95	69	164	2	20.	B	95	69	164	2	81.2
21.	J	86	77	163	8	21.	J	86	77	163	8	78.4
22.	F	75	86	161	6	22.	F	75	86	161	6	78.2
23.	V	84	63	147	11	23.	Y	84	63	147	6	71.4
23.	Y	89	58	147	6	24.	V	89	58	147	11	69.7
25.	N	70	54	124	20	25.	N	70	54	124	20	56.4
26.	I	53	69	122	23	26.	I	53	69	122	23	54.7

## Betrachtungen zu einem Wortschatztest

Jun Otomasa

### Kurze Inhaltsangabe

Der Verfasser hat mit der 2. Klasse der deutschen Abteilung (26 Personen) einen Wortschatztest durchgeführt. Aus den 369 Wörtern (alle Substantive) der ersten 14 Lektionen von *Kinderduden*, mit dem die Klasse unterrichtet wurde, sind 100 Substantive ausgewählt, und mit ihnen sind 2 verschiedene Arten des Tests gebildet. Der eine Test (Test I) soll prüfen, ob die Studenten diese 100 Wörter auditiv verstehen können, und der andere (Test II), ob sie dieselben Wörter aktiv gebrauchen können. (Ihnen wurde das Bild gezeigt, das mit dem Substantiv genannt wird, und sie sollten es nennen.)

Der Verfasser kann sagen, die Studenten hätten die 100 Wörter passiv ziemlich gut bemeistert, denn sie konnten von den 100 Wörtern eben 29 ohne eine einzige Ausnahme (nämlich alle Studenten) richtig verstehen, und zwar eines dieser Wörter gehört schon zu den neunzigstleichtesten Wörtern. Im Gegenteil dazu konnten sie von denselben 100 Wörtern aktiv nur 2 richtig wiedergeben, und zwar das zweite von ihnen war eben das achtstleichteste.

Außerdem traten die „Dummy-Wörter“ bei den Wörtern viel seltener auf, die die Studenten passiv gut beherrscht haben. Die „Dummy-Wörter“ heißen diejenigen Wörter, die von den Studenten weder passiv noch aktiv bemeistert werden konnten.

Aus diesen Tatsachen stellt der Verfasser die folgenden zwei Überlegungen vor:

- 1) Zur Erweiterung des Wortschatzes der Studenten muß eher gestrebt werden, die Wörter zuerst passiv vollständig zu bemeistern. Sie aktiv zu beherrschen soll ein zweites Lernziel sein.
- 2) Um das neue Ziel zu erreichen, die Studenten nämlich zuerst die Wörter passiv beherrschen zu lassen, sollen wir audiovisuelle Lernmittel auf neuem einsetzen.